

民・国連携で森林総合監理士等会議を開催

【技術普及課、岐阜森林管理署】

10月30日から31日の二日間、中部ブロックの民有林・国有林森林総合監理士等の技術、資質の向上を図ることを目的に、森林総合監理士等連携会議を、五県(愛知、岐阜、滋賀、静岡、長野)の民有林関係者24名、中部森林管理局職員15名が参加し、岐阜県との共催で岐阜県美濃加茂市及び七宗町において開催しました。

今回は人工林が本格的な利用期を迎えるなか、「主伐・再造林の取組」をテーマに事例紹介や現地視察等を行いました。

全体会議では、中部局担当者から伐採と造林を一貫して行う作業システム等の低コスト化の取組、岐阜県及び下呂農林事務所担当者から岐阜県における主伐・再造林について説明がありました。また、岐阜県内で主伐・再造林に取り組んでいる(有)根尾開発から、「主伐・再造林への課題、取組」と題して、社有林や分収林での事例、岐阜県森林技術開発・普及コンソーシアムでのニホンジカ被害対策、広葉樹の整備・活用などについて、課題等も交えて説明がありました。

現地視察は、七宗国有林において、ニホンジカ対策試験地の各種防護柵などの説明、伐採・造林一貫作業実行箇所での作業システム等について説明を行いました。



参加者集合写真(伐採造林一貫作業箇所)

二日間の会議では、活発に質疑応答や情報共有などがされ、参加者からは「数々の事例紹介があり参考になった」などの意見も聞かれ、参加者同士の情報共有、技術・知識の向上を図る良い機会となりました。